

立教186年
活動方針

「教祖のひながたを目標に
全教会心定めの達成」
めどら

◇10月26日 本部秋季大祭 終了◇

「諭達」発布から1年 たすけ一条へ
おちばでの行事が盛りだくさんでにぎやかな
おちばがえりとなった。

◇ようぼく一斉活動日 終了◇

10月29日 (日) 全国各地で第1回目が終了
次回は来年6月1日 (土)、2日 (日) のどちらかと
なっております。ぜひご参加下さい。



大教会のHP がご覧になれます！
月報には掲載されない写真もいっぱいです！
ぜひ一度ご覧下さい♪



発行所
天理教網走大教会
布教部出版広報掛
〒093-0073
網走市北3条西6丁目
TEL 0152-43-2227
FAX 0152-44-2227

大教会 秋季大祭

大教会秋季大祭は、12日午
前9時30分から大教会長祭主
のもと、執行された。

大教会長は祭文で、親神様
の御守護に御礼申し上げた後、
「九月一ヶ月のいをいかけ強
調月では、より一層力を入れる
中、年祭活動の大きな旬に
様々と不思議な御守護を頂戴
しましたことを厚く御礼申し
上げます。又、九月は初席者
三名、教人一名の御守護を賜



先達講習会

中西はつよ先生

10月12日祭典終了後、引き
続き参拝場にて「先達講習会」
が中西はつよ先生 (琵琶支部
長) を迎え開催された。
中西先生は教祖のひながた
のお話や、ご両親がコンゴ布

りましたこと重ねて心より御
礼申し上げます。更には、本
日祭典終了後、婦人会主催の
先達講習会を開催させて頂き
ますので、一人ひとりに気づ
きをお見せ頂けますようお願い
申し上げます。又、十月二
十九日のようぼく一斉活動日
には、網走に繋がる者が一人
でも多く各会場に参加できま
すよう重ねてお願い申し上げ
ます。」と奏上した。

その後座りづとめ・十二下
りのてをどりが勤められ、参
拝者は共に勇んでみかぐらう
たを唱和した。

◆教祖を感じて◆
昨年暮れに主人である会
長と私は大喧嘩致しました。
年祭活動が始まる前年ですか
ら、いよいよ年が明けたら年
祭活動です。そんな時に大喧
嘩してしまいました。頭では
夫婦揃って、心揃えていかな
いといけないのに、頭では分
かっているんですが、心はな

かなか治まらずに、もうどう
しようと思っておりました。
そしたらそんなタイミン
グで婦人会本部から一本の電話
が掛かってきました。女子青
年の担当者講習会のお話の依
頼でした。それだけでも私は
びっくりしたのですが、「テー
マを、いつも心に教祖をでお
願います。」って言われた
んです。

もう私は思わず本音が出て
しまいました「あの今、程遠
いような日常を送っておりま
すので」とつい言ってしまった
のですが、落ち着いた声で
「大丈夫です」と言われまし
て、でもそのお陰で私は立ち
止まることなく、微々たる一
歩ですが前へ進むことができ、
そして今こうしてこのような
場に立っているんです。

そんな私ですから、えらい
こつちゃと、今更ながら勉強
材料を引っ張り出して、どう
しようと思っておりました。
そんな時、嫁入り前に里の父
から渡されました教祖から聞
きし話と書かれた本に目が留
まりました。
懐かしさとその表題に思わ
ず手に取りまして、開きます

とそこには「代重ね、理重ね。父より」と直筆の文字。そしてその隣のページには初代が教祖より直々に頂戴致しました色鮮やかな真つ赤な赤衣の写真が目に飛び込んでまいりました。思わず鳥肌が立ちました。

これは今回の御用のために目に留まるように先回りして下さったんだなと思うとなんだか温かな気持ちに包まれて、不安でしかなかった気持ちが、スツと落ち着いてまいりまして、勉強させてもらおう、頑張ろうとの心に変えて頂きました。

このように間違いのない教材を、ちゃんと寄せて下さるその親心を感じて、なんと勿体ないことやなあと思ったんです。そして、教祖ありがとうございます、とそういうような気持ちになったような次第です。でもですね、成人の鈍い私です。

今年の婦人会総会の前日、またもや心に治まらぬ出来事がありまして、もう勝手にしたらええやんかと、投げやりな気持ちで玉ねぎをスライスしていたんです。すると、そ

の時に限って、新品のスライサーでして、親指の皮をピッと削ってしまったんです。痛あと思っただんですけども、その時に、教祖に「親やろ、短気出さんとつなぎや」と言われてしまったような気がしまして「教祖ごめんさい」でございます。

でも、そのお陰でまたもや沸点に達して吹きこぼれそう私の気持ちにスツと水を差して頂いたように、吹きこぼれずけども、皆さまはこのようなことはないですか？私は恥ずかしながらしょっちゅうでございます。

このようにいつも先回りをして私たちの傍で導いて教えて下さっているんだなと、日々通る中に、ここにもあそこにもと教祖からのメッセージを皆さんで受け取って、その親心を感じて通れたらこれほど安心で、頼もしいことはないのではないかと思うんです。

若かりし頃、何かあるごとに父から「見るもいんねん、聞くもいんねん」と言うてな、どんなことも教祖がお前に見

せたり、聞かせたりしてくれてはるんやから、たとえテレビを見ててもなあ、ぼーっと見てたらあかんのや。そう思ってたならな、教えてくれることがいっぱいあるんや。」との一言を思い出して、その時は聞き流していた言葉でしたが、今は本当にしみじみ噛み締めております。

やはり言葉に出して伝えるという事は、改めて大切なんだなあと思わせて頂くのです。親神様が教祖のお口を通して教えて下さったということの大きな意味があるんだということをつくづく思うんです。

昨年の第三十回の女子青年大会で真柱様がメッセージの中で「教祖はお姿は見えないけれど、存命でおられるのであります。しかも今も存命でお働き下さっている」と仰せ下さいました言葉が、私はとても強く印象に残りました。

今現在、私たちは実際に教祖のお姿を拝することはできませんし、そのお声を聞くこともできません。でもどうでしょう、何かという無意識に教祖は存命でいて下さるかと言葉にし、使っていると思

思うんです。それほどお道を通る者にとっては当たり前のことなぜ真柱様はメッセージの冒頭で仰られたのかなと思っただけです。

私は、昔言われた一言を思い出しました。それは御用方室掛で女子青年として勤めていた頃のことです。そこではおかきさげの書き手の先生のお手伝いや、後席を取り次ぐれる先生のお茶接待など、専修科生さんと共に事前にお部屋のお掃除や準備をさせて頂くのですが、その建物が少し薄暗い所でございます。

そのような場所なので、お布巾がなかなか乾かないんです。そしてある時、あまりにもお天気だったので物干しごとそこへチョンと出してたんです。すると、そこをちょうど通りかかられた本部婦人の中山もと奥様が御用の帰りに通られました「ちよつと」と声をかけられたんです。緊張して出ていきますと初めに優しく「ご苦労さんやなあ」と申された後に一言「これな、こんなところに置いたらあか

そやからな。」と仰っただけです。思ったんです。父はコンゴの人々に、誰が助けているのか、なぜ助かるのか、助けて頂いたら次に何をすべきなのか、この目に見えない親神様のお働き、かしののかりもの、教祖は存命、おたすけの心など、これらを伝えたいのに伝わらない。いつしか伝えることに執着するあまり、次第に父の純粹なたすけの心に、モヤがかかっていたんです。

言葉が通じないせいや、常識が違うから、挙句の果てにはコンゴの人が、と相手に求めていったんです。そんな時に見せられたのが、母の妊娠そして出産の節でした。心音が聞こえずに、七か月目に私は帝王切開で母のお腹から出されました。そしてその上に兄との双子でした。産声も上げずに死にかけて生まれて来たんです。当然そういう国です。母体の命最優先です。母体の命だつてどうなるか分からない。そんな中で、わざわざ心音が聞こえない子供が出てきたら、治療をしないんです。汚い布に包んでそこら辺に置かれたとい

うのは後で父から聞きました。何とか父が縋りついて、治療して頂いたお陰で私は今ここにいらして頂くんですが、父は毎日、あの時ほどおつとめとおさづけのありがたみが身に染みたことはなかったと、祈ることのできる身の幸せ、継ることのできる教祖が存命でいて下さることにとだけ支えられたかと、何度も私に話してくれました。

そして母はをびや許しのお陰で心配することなく、教祖に凭れられたんだと話してくれました。そして容態もやつと落ち着いてきた頃、今度はあちらの風土病、死に病でもありますが、マラリアに罹つて、さすがに医者さんからはもう助からないと言われたんです。四十度、四十五度以上の熱に苦しんで死んでいくわけです。お医者さん、もう駄目だということになったんです。

そんな中ある夜、落胆した父が布教して戻りますと、コンゴの方数人が暗闇の中でロウソクを灯して何かをしている姿があったんです。初めはそれが何であるか分からな

なと思うんです。

◆ひながたとは◆
この度ご発布頂きました論達第四号に「教祖はひながたの道はまず貧に落ち切るところから始められた。」とございます。ひながたの道というのは陽気ぐらしに向かうたつた一つの道だと教えて頂いておりますが、何故その始めが「貧に落ち切る」なのでしょう？

貧に落ち切るという点について、二代真柱様は「私たちは風呂へ入るために服を脱ぐが、それは目的ではなく、服を脱がなければ風呂へは入れないから、同様に貧に落ち切られたひながたは、貧乏になることが目的ではなく、陽気ぐらしへ至る心の持ち方を教えるためだ」とこのようにお教え下されています。

人間が何一つとして、足りないことがないように、水一滴に至るまで何もかもお与え下さっているこの世の中であります。このように私たちの生きる世界は楽しませたい、幸せにしてやりたい、全てを助けてあげたい、とのどこまでも深く子供を思う大きくて、温かな親心に包まれ、守られ

て生かされている。そんな思いを、教祖を通して初めて私たちは聞かせてもらっているということ。それがおひながたなんです。

教祖はお母さんになって一人ひとりに、この元を教えてください。親神様のご守護を信じて、凭れ切ることができるよう生きる目的をもって素直に通れるように、幸せに陽気に暮らしていただけるように、お手本を残して下さい。それはまさに私たちが、子供の行く末を思って育てると同じであります。

教祖のおひながたを見る姿は、助けを求めてくる人たちは勿論のことですけれども、どんな人も優しい温かなお心で包んで、疑い深い人々の心も溶かして、一方では常識を超えた施しや、どんな時も変わらないお態度、その凛としたお姿からその強い信念、覚悟、揺るぎのない誠実実でもって抱きかかえて、助かりたいばかりの心を、いつしか助けた心へと変えて、真に助すかある道があることを教えて導き育てて下さったんです。教会へ参拝するのも、ひの

きしんをするのも、活動するのも、どういう心ですかが肝心であります。なぜならそれによって相手に映る姿、自分に残るもの、その先が大きく変わってくるからです。助けられた人々の心というのは、胸から胸へ伝えられて、代を重ねてその道が続いて今の私たちに繋がっているのです。

◆両親のコンゴ布教◆

二代真柱様の御命で、両親がアフリカのコンゴの地で布教生活を送る中で私は生まれました。言葉も習慣も風習も、何もかも異なる中にも、父はたすかりを求めて来るたくさんの人々の行列に、勇みに勇んでおたすけに励んでいたんです。向こうは医療なんかありません。貧しい国ですので、一度ご守護が現れたら人だかりの山です。それに毎日父がたくさんのおさづけを取り次いでる姿を思い出します。そんな中、父は、いつしか勇めなくなるんです。何故かそれは助かれば来なくなるからです。自分のやっていることは、医者と一緒にだなど。病院は病気が治ったら行かないですよ。それと一緒にだなど

かったようですが、数日経って父は、どこからともなく、なむてんりおうのみことらしき、はつきりではないんです。が聞こえたと言います。

それは本当に聞こえたのか、教祖が聞かして下さったのか分かりますが、父は瞬間に、これは願ひ込みのおつとめをしていてと思つたんです。当然おつとめの形は全然違ひます。何しているか分からないようなことなんです。ただ

コンゴの人達はあのまじないのような歌を唱えて、変な手振りをしたら奇跡が起こって、自分達もたすかったのだからと、真似をして一生懸命にたすかりを願って、がむしゃらに祈っていてくれたんです。

その純粹な心を知った父は、コンゴの人達に詫びて号泣したと聞きます。おつとめの意味も教理も、何もかも分かっている、おさづけを取り次げる布教師の父が、何も分からない、何も持っていないコンゴの人達に、おさづけの本質を教えられたんです。お道のおたすけは互い助けの道です。

信仰を取り戻した父のおさづけは、まるで命が吹き込まれたように、どんどん不思議が現れ、私は鮮やかに助け頂きました。

おふでさきに、しんちつが神の心のかなハねば、いかほど心つくしたるとも。とお教え下さっておりますが、教祖にお仕えしている身であること、お継りする心を忘れていたと、後に父が述懐してありました。後日退院した母の手から、コンゴの人が私を抱きかかえて天高く掲げて、親神エラーと叫びながら街を歩いたそうです。神はここにいます、これが神だということに意味なんですね。

父が初めに一番伝えたかったことがちゃんと伝わっていません。これはもう奇跡だったんです。そしてやはり教祖は存命で働いて下さっている何よりの証拠であります。父からはよく、話が上手とか下手とかで伝わるのとは違う。相手の事を思つて誠実の心を神様が受け取つたなら、必ず伝わるんや。だからお前はやることやつたらええんや、とよく言われました。以前の総会で婦人会長様は、何から

でも人を助ける行いをするのが大切とお話下さり、中でもおつとめとおさづけは、一番大切なものと仰せ下さいました。そして人を助ける行い、おさづけを頂いていなくても、年齢に関係なく誰もが日常の中でできることです。とお言葉に、私はあの日お願ひづとめをしてくれた、命の恩人であるコンゴの人達のことを思い出してあります。コンゴの人達はおさづけの理を戴きたくても、一生おぢばに帰れない人がほとんどであります。でも私は思うんです。真に人を助けるといふことは、どういふことなのか。真の助かりとは何なのか。そして私たちがおさづけの理を頂戴する意味を、今このコロナの感染や痛ましい社会情勢をお見せ頂く中で、改めておたすけの本質を問われているように思うのです。

本部秋季大祭

10月26日、本部秋季大祭が中山大亮様を祭主に心地よい秋晴れが広がる中、厳かに執行了された。

かぐらづとめ、てをどりが勤められ、その後、真柱様があいさつに立たれ、秋季大祭を勤める元となった立教の元一日と、人間創造に込められた思召について諄々とお話下され、最後には、一人でも多く、ようぼくの自覚を持つて動いてくれるように働きかけ、年祭活動が盛り上がりつつ、いくよう勇んで通ることを求めて、お言葉を締めくくられた。



参加者25名

また、大祭前日の25日には、境内地の除草ひのきしん、その後お願ひづとめを参拝し、午後からはようぼく講習会が開催された。夕食には久しぶりに食堂で懇親会が行われ、カラオケなどで盛り上がった。26日朝づとめ前には布教部主催の回廊ひのきしんなど、詰所もにぎやかなおぢばがえりとなった。

◎境内地除草ひのきしん
25日10時から、本部西境内

◎ようぼく講習会

25日、詰所2階大広間にて、ようぼく講習会。教祖のひなごがたから学ぶ縦の伝道というテーマで、桐谷善広准役員が講話し、その後、お話の内容について練り合いをさせて頂いた。

練り合いの内容は、信仰は家族に伝わっているか、また、信仰を伝えることは重要だと思ふかなどを、練り合わせて頂いた。

参加者30名



教祖140年祭

誠綱 馬道奈緒子
小笠原敏子さんから是非参加してみたら、というお話を

立教186年人のご守護 心定め			
初席者	ようぼく	修養科修了者	教人
69名	44名	34名	21名
成 果 (10月末現在)			
23名	6名	4名	4名



◎回廊拭きひのきしん

26日朝、布教部主催の回廊拭きひのきしんが行われた。38名の参加者が集まり、勇んで回廊拭きをさせて頂いた。回廊拭き終了後、教祖の朝のお出ましを拝させて頂き、朝づとめを参拝して詰所へ戻らせて頂いた。

ようぼく一斉活動日

10月29日(日)、全国各地で『ようぼく一斉活動日』が実施された。

同じ地域に住むようぼくが集い、思召に心を揃え、互いに勇ませ合つて、ともに年祭活動の歩みを進める日として、年祭までに計5回開催される。今回は、第1回目が行われ、

網走支部では、本部布教部長の松村登美和先生のビデオメッセージを見た後、八子道子先生(空知分教会前会長)の講話を聞かせて頂き、その後、ねりあいをさせて頂いた。

次回は来年6月1日(土)・6月2日(日)のどちらかの開催になりますので、詳細は各教会にお尋ね下さい。



月ひながた Myカード

氏名 _____
 No. _____ 逸話篇 タイトル _____
 逸話篇を読んで感じた事
 一ヶ月間どう通りますか?
 一ヶ月間通ってどうでしたか?

ひながたMYカードで教祖のひながたを実践

毎月、大教会月次祭の翌13日午前中に、部内教会長夫妻が、世話人毎のグループに分かれて、勉強会やねりあいを行っている。

今年8月からは、教祖のひながたを身近に感じさせて頂く目的から、参加者一人ひとりが、稿本教祖伝逸話篇の番号が書かれた「くじ」を引き、そのお話を読んで、ひと月そのお話を心において通らせて頂くというの試みを始めた。

ひながたMYカードという用紙に感想などを記入し、それを毎月、教祖のひながたの実践について、話し合を行っています。

修養科事前研修会

よろこびセミナーを受講して

修養科事前研修会を受講して
常呂 野村 秀子 (現在修養中)

とても参考になりました。ありがとうございます。これからはもっと努力しなくてはいけないなと、思う気持ちです。これからはいろいろなことを教えて頂きながら、少しでも自分が成長できるように努力して頑張りたいです。

常呂 藤井 道恵 (現在修養中)

伺っていました。参加させて頂き、きっかけはそれぞれで、同じ時間に自分以外の方のたすかりを願つたり、参加の方の心が一つとなつて、有難い二泊三日の研修会でした。まだまだ私の伸びしろがありそうです。心の成人をもっともつとめできるようにおたすけさせて頂こうと思ひました。

動 静

年 祭

▼直轄所属・山崎紘一の霊様の30年祭が10月17日、網走市の自宅にて瀬川定自・直轄世話人祭主のもと執行された。

▼常呂分教会所属・黒田實の霊様の5年祭が10月15日、東京都東久留米市の自宅にて藤井広志常呂分教会長祭主のもと執行された。

10月人のご守護

○初席者 (4名)

陽光 桐谷実咲
誠網 小池咲綾

○中席者 (8名)

直轄 浅田幸斗
陽光 山川真斗
常呂 野村秀子

誠網 新川愛貴
誠網 木沢巴菜

○教人資格検定講習会受講者 (全期) (1名)

誠央 加賀谷和子

○教会長資格検定講習会修了者 (1名)

武士 村井 実

○教人登録者

實東 吉田 廣江

○別席傍聴願 (1名)

○お守り下附願 (1名)

育英会寄付者

伊東真由美様 (夫葬儀)

宗雅分教会様 (志)

誠央分教会様 (三代会長十年祭)

山崎葛代様 (夫30年祭)

大教会10月の動き

1日 役員会。直轄世話人会。縦の伝道日

4日 神殿上段大掃除

7日 会長夫妻、誠央分教会三代会長10年祭参加

8日 お話し会。縦の伝道日

9日 網走支部例会会場

10日 役員会会議

11日 教祖140年祭網走おたすけ委員会会議

12日 秋季大祭。先達講習会(婦人会)。役員

会会議。連絡会

教会長夫妻練り合い。参拝場、廻廊大掃除。修養科事前研修会(15日まで)

縦の伝道日

会長、上級参拝、関東信者まわり

会長、館山分教会秋季大祭参拝

会長、嶽東大教会参拝

会長、札幌信者まわり(21日まで)

縦の伝道日

会長、おぢばがえり。詰所23会

会長、本部神殿奉仕つとめる

五季御礼。会長、本部災救隊会議出席。

おぢば講習会(詰所)本部秋季大祭遙拝。

会長、教区主事会出席。結城和広役員、本部神殿奉仕つとめる

会長、かなめ会出席。細木善信役員、本部神殿奉仕つとめる

ようばく一斉活動日

みそか会。直轄世話

人会

立教186(令和5)年人のご守護成果表 (10月末現在)

Table with columns for church names, membership status (初席, 中席, 修卒, 教人), and participation statistics (参加者, 累計).

秋季大祭 10/12(木)

Table detailing the Autumn Festival (10/12) with columns for participants, roles (祭主, 指図方, etc.), and specific activities.